

東広島医療センター 呼吸器グループ



Updated Topics and Report (25th issue)

平素は格別のご高配を賜り、厚く御礼申し上げます。

東広島医療センターの呼吸器グループは、広島中央医療圏において診療に携わっておられる先生方へ定期的に“**Updated Topics and Report**”をお届けしております。

当グループは地域医療機関の先生方から多くの患者さんをご紹介頂き診療実績を積み上げてまいりました。グループ全体として、先生方や地域住民に信頼していただける医療を今後も提供できるように診療レベルの向上に努めていくとともに、情報発信も行っていきたいと考えております。ご多忙中のところと存じますが、本誌を診療の合間などにお読みいただければ幸いです。

本号は、『**ロボット支援下手術において初期 40 例が終了**』のご報告、ならびに『**県をまたいだ多施設連携で治療を行った Mycobacterium abscessus の 1 例**』の症例報告です。

2025 年 7 月

➤ ロボット支援下手術において初期 40 例が終了

手術ロボット Da Vinci は、内視鏡下の手術野で特殊な器具を用いて行う手術であり、術者への触覚によるフィードバックが無いため、高度な技術が要求されるとともに独自の教



育プログラムを受ける必要があります。この過程を経たうえで、40 例以上の手術を行った術者は、呼吸器外科ロボット支援手術を指導できる指導者（プロクター）となる資格の申請が可能となります。



当院は 2024 年 2 月に呼吸器外科のロボット支援下手術を開始し、本年 6 月までに 43 例の手術を実施しました（**左下表**）。よって当院はいわば呼吸器外科ロボット支援手術を行う上で「初期段階を乗り切った」という現状にあると言えます。

肺葉切除術	35 例
胸腺関連腫瘍切除術	7 例
縦隔腫瘍（胸腺以外）切除術	1 例

肺癌に対する手術は頻

繁に術野の展開状況を変換する必要があること、さらには大出血のリスクを伴う血管を複数本処理する必要があることなどから、

他疾患と比較してロボット支援下手術のメリットについて疑問・議論ともに多く残されていますが、世の中の流れはロボット手術が今後、主流になると現時点において考えられています。



▶ 県をまたいだ多施設連携で治療を行った Mycobacterium abscessus の 1 例

(症例) 40 代の女性。右肺上葉の空洞性陰影（右図）の精査目的に前医（他県）を受診。気管支鏡検査を行い、非定型抗酸菌 (*Mycobacterium abscessus*) が検出された。在住している県内の医療機関において、本疾患



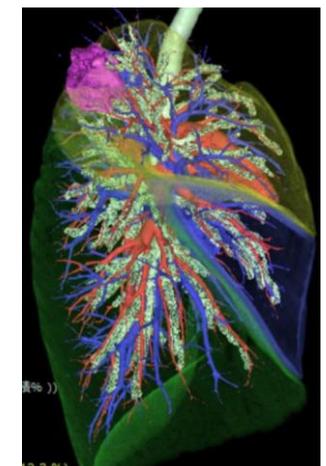
に対する治療経験がなく手術療法は実施困難とのことで、当院との連携での治療依頼目的にて紹介となった。

(画像所見など) 点滴抗菌剤も含めた初期強化療法を紹介医で行った後の CT 画像（左図）において、右肺尖部に空洞性病変は残存しており、周囲に気管支拡張像

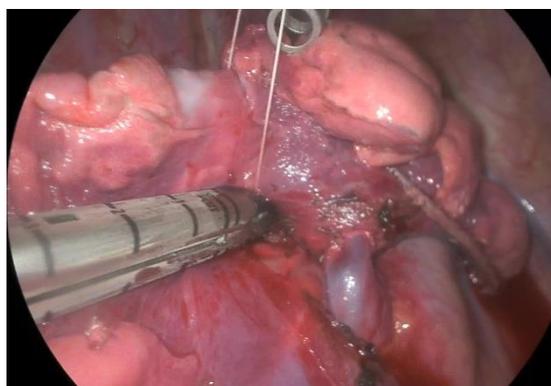
やコンソリデーションもあり、上葉の肺容量は低下していた（右下図）。

なお初期強化療法後も痰からの排菌は続いていた。

(呼吸器グループカンファレンス) 紹介医、さらに患者在住県における国立病院機構の呼吸器内科医と、当院呼吸器グループ共同で協議を行った。初期治療後も空洞性病変は残っており切除が望ましいと判断された。患者さんは小さいお子さんがいることから、維持療法ならびに、手術前後 2 週間ずつの点滴による強化抗菌療法を紹介医で行う体制で、手術は当院で実施する方針となった。



(手術所見) 上葉の病変（色調変化を伴う硬結）は下葉に進展しており、周囲には炎症性の癒着を認めた。血管鞘も炎症性に肥厚しており、剥離操作に難渋するも、上葉への血管・気管支を処理。下葉 (S6) への進展が疑われた部位を合併切除しつつ右上葉切除を完遂した（左図）。



(病理組織学的所見) 病変部は壊死巣とそれを取り囲む類上皮肉芽組織であり、*Mycobacterium* 感染症による壊死性類上皮細胞肉芽腫と診断された。なお、切除組織の培養検査で *Mycobacterium abscessus* が検出された。

(術後経過) 術後 5 日目に紹介医へ転院し、入院で点滴による強化療法が実施された。2 週間の強化療法終了時点で痰からの排菌は消失していた。その後、画像上も新規病変等の検出はなく経過している。

(考察) *Mycobacterium abscessus* による肺感染症はまれであるが、薬剤抵抗性が強くしばしば治療に難渋する。多剤併用抗菌薬治療を数か月行い、さらに手術前後に点滴抗菌剤による強化療法を行って手術を行う治療法が選択肢であり、当院では過去数例の治療経験がある。本例においては、県外の医療機関からの依頼で本疾患の治療を協同して行った初めての経験であった。外科治療の介入時期をどのように決定するかを含めて、県をまたいでの協議を綿密に行い、良好な結果を得られた貴重な 1 例であった。

東広島医療センター呼吸器グループは、最高レベルの医療を提供できるよう、充実したスタッフによる最良の診療を心掛けてまいります。また原則としてご紹介いただいた患者さんは、ご紹介元の先生に逆紹介するよう心がけております。東広島医療センター呼吸器グループに対するご意見・ご不満・ご質問・ご感想、またお知りになりたい情報等ございましたら担当医もしくは地域連携室までご連絡ください（地域連携室 FAX：082-493-6488）。